



# 診療科のご案内

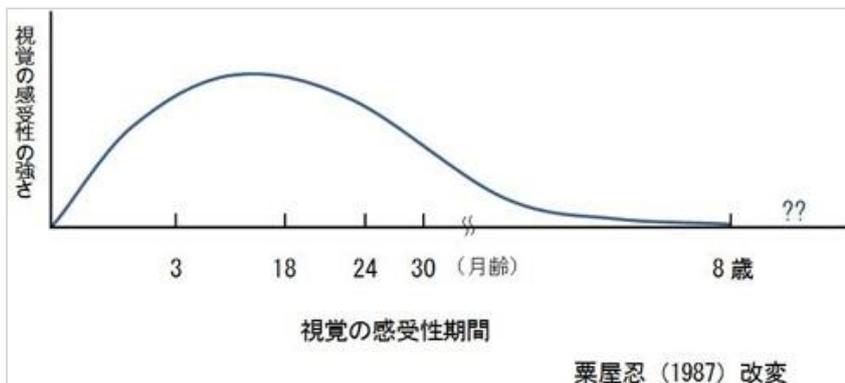
大阪母子医療センター  
眼科



## 弱視・斜視をはじめとした小児の眼疾患全般に対する治療を行っています

新生児から入学期までの乳幼児を主な対象として、視機能の発達にとって最も大切な小児期の眼疾患に対する専門的な治療を行っています。小児は眼も成長段階にあり、早期からしっかりと視機能を発達させられるような環境を整えなければなりません。そのためには正確な診断が不可欠です。年少児や発達障害児では検査・診察が難しいことが多いですが、当科では小児の診療に熟達したスタッフが外来を担当しています。

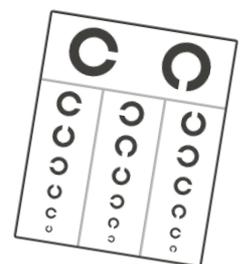
**【弱視】** 小児の視力は成長とともに向上していきますが、何らかの原因で成長が阻害されたものを弱視と言います。主な原因は屈折異常や斜視などで、治療は眼鏡やアイパッチ治療を行ったり、原因となる疾患の手術を行う場合もあります。視覚には感受性期があり、時期を過ぎてしまうと治療効果が無くなってしまいます（図1）ため、早期発見早期治療が大切です。



(図1) 視覚の感受性期  
視覚の感受性期間は概ね8歳くらいまでで、特に生後2か月頃から2歳頃までが強くなっている。

**【斜視】** 斜視は、片方の眼が正面を向いているときにもう片方の眼がよそを向いている状態のことです。向いている方向によって外斜視や内斜視、上下斜視などに分けられます。外斜視は真っすぐだったりに外れたりする間欠性外斜視が多いですが、当科では5,6歳頃に手術をすることが多いです。内斜視は遠視を眼鏡で矯正すると眼位が改善する調節性内斜視もありますが、改善しない場合には手術を行います。上下斜視は斜頸を伴うことも多く、しっかりと検査を行ってから手術を行います。

斜視手術を全身麻酔で受けることをご希望の場合には高校生まで受け入れをしていますので是非ご相談下さい。

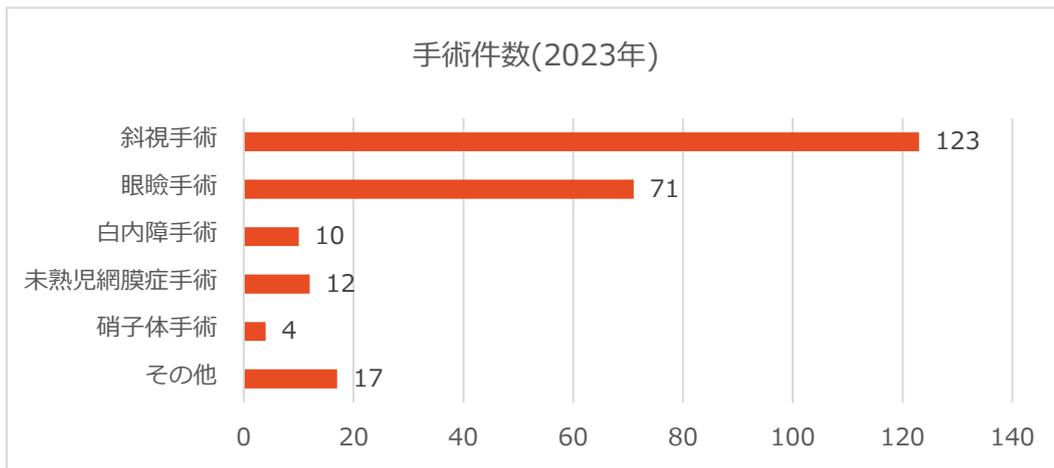


## 【白内障】

白内障は眼の中のレンズである水晶体が濁っている状態のことです。程度の強い先天性白内障の場合、非常に早期に手術を行わないと形態覚遮断弱視と呼ばれる重度の弱視となります。2歳以降では大人と同じように眼内レンズの挿入を行います。新生児では難しいため術後にハードコンタクトレンズによる矯正を行います。

## 【未熟児網膜症】

低出生体重児に起こる網膜血管の未熟性を基礎として発症する網膜症です。発症しても90%の患児は自然軽快しますが、重症化した場合には網膜剥離を引き起こすことがあります。当科では硝子体注射治療や網膜光凝固術（レーザー治療）、網膜剥離の手術を行っています。



眼科ホームページ

### 担当医一覧

	月	火	水	木	金
午前		遠藤			遠藤
		藤原			藤原
		●			
午後	遠藤		遠藤	コンタクト	
	藤原		藤原	外来	
	●		●	(隔週)	

●は交代制等

### 診療科より

眼科の初診予約の待ち時間が長くなってしまっており、地域医療機関の先生方にはご迷惑をおかけして申し訳ありません。

緊急性の高い患者さんに関しては早急に対応させていただきますのでお気軽にお問合せ下さい。 [眼科] 遠藤 高生

## PICU ホットライン(24時間受付直通)

☎ 0725-56-1070

重篤な小児患者さんを積極的に受け入れています

### 子どもの手術は当センターにお任せください

- ・小児の麻酔、看護に精通しています。
- ・チームでの医療を実践しています。
- ・家族の付き添いが必須ではありません。



京北高速鉄道 光明池駅 徒歩5分

大阪母子医療センター

患者支援センター

〒594-1101 和泉市室堂町 840 TEL0725-56-1220 (代表)

初診予約 : FAX **0725-56-5605** (24時間受付 : 午後7時以降受領のFAXの回答は次の受付開始後です)



(2024年9月発行)